



FOP 患者家族のコロナウイルス (COVID-19) 予防策 2020 年 12 月 30 日

コロナウイルス (COVID-19) の流行は、特に症例の急増が続く中、世界中の人々に重大なリスクをもたらし続けています。ICC は、FOP 患者に対して、**SARS-CoV-2** すなわち **COVID-19** を引き起こすウイルスへの感染を防ぐための予防手段を徹底的に実行し続けることを推奨します。本声明は、ICC が 2020 年 7 月 9 日に発表した声明の更新版です。

FOP 患者は、COVID-19 によって重篤な症状が発現する危険性が高いです。

主要な推奨事項は急速に変化しており、また国によっても異なります：

- 地域保健当局の高リスク群患者（免疫不全者のような高リスク群）に対する助言に従って下さい。
- **SARS-CoV2 (COVID-19 を引き起こすウイルス)** の蔓延を防ぐことが重要です。
- **(新)** 現時点で **COVID-19** のワクチンは安全性と効果に関するデータが欠如しているため **FOP 患者には推奨しません。**
- **(新)** 現在ワクチンが入手可能になってきていますが、まだわからないことが多くあります：小児での試験は行われておらず、ワクチンが **FOP 患者に安全で有効であるかは不明であり、現在のワクチンを皮下注射した場合に効くかは不明であり、ワクチンの供給は限定的でしょう。FOP 患者が COVID ワクチンを受けようとする場合は、あなたの FOP に関する主治医にコンタクトを取って指示を仰いでください。**
- **(新)** 家族は受けられるようになったら **COVID ワクチンを接種して下さい。**
- **(新)** 例え誰かがワクチン接種を受けたとしても、マスクの着用、手洗い、および物理的な距離をとる手段といった標準予防策を行うことは依然として重要です。
- **(新)** **FOP 患者とその周囲の人々は、ワクチン接種を受けたか否かにかかわらず、標準的な予防措置に従い、マスクの着用、手洗い／消毒、および物理的な距離をとる手段を遵守すべきです。**
-
- 世界保健機関 (WHO) による情報：[ここをクリック](#)
- 米国疾病予防管理センター (CDC) による情報：[ここをクリック](#)

* 訳者注：日本では厚生労働省のホームページを参照してください。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

SARS-CoV-2 は、COVID-19 感染症を引き起こし得る新型のコロナウイルスです。COVID-19 は肺および気道に影響を及ぼす可能性があります。COVID-19 の最も一般的な症状は、発熱、乾性咳嗽、倦怠感です。一部の患者では、息切れ、疼きや疼痛、味覚や嗅覚の喪失、鼻閉、鼻汁、咽喉痛、または下痢が発現することがあります。場合によっては重症となったり生命が脅かされたりする可能性があります。これを予防する最善の方法は、このウイルスへの曝露を避けることです。

ワクチンの開発で何が変わるか？

- 最近のワクチン開発により、長期的な希望が持てるようになりました。ただし、COVID-19 の世界的流行に対するワクチンの効果が現れるまでにはかなりの時間がかかります。多種類のワクチンが試験段階にあり、この分野は急速に変化しています。
- 現在までの全てのワクチンについて、小児を対象にした試験や皮下投与での試験は行われていません。
- いくつかのワクチン（モデルナ、ファイザー）は、mRNA を骨格筋に注入して免疫を誘導するものです。これらのワクチンが作用するためには骨格筋への注射（すなわち筋肉内投与、IM）が必要です。皮下注射により免疫が獲得されるか、どの程度獲得できるか、は不明です。
- 中国のものを含む他のワクチンでは、免疫誘導に異なる手法が用いられています。シノバックおよびシノファームのワクチンは、不活化ウイルスワクチンです。ジョンソン・エンド・ジョンソンのワクチンは、アデノウイルスを基にしたシステムを用いて SARS-CoV-2 の遺伝子の一部を発現させ、免疫を誘導させるものです。これらが FOP 患者に安全かどうか、FOP 患者に皮下注射として使えるか、は依然不明です。
- ワクチンによる免疫持続期間は不明です。
- 現時点では、安全性および有効性データが不足しているため、ICC は小児のワクチン接種については推奨しません。
- ICC は、FOP 患者での筋肉内予防接種を推奨しません。筋肉内投与によりフレアの活動性が著しく誘発される可能性があるためです。
- ICC は、ワクチンの皮下注射について、有効性・安全性データがないため保留します。しかし主治医と危険性と可能性のある利点について慎重に検討して下さい。COVID ワクチンを受けようとする場合は、あなたの FOP に関する主治医にコンタクトを取って指示を仰いでください。
- FOP 患者の家族および介護員が安全に COVID-19 の予防接種を受けられる場合、ICC はそれを推奨します。
- ワクチンが効果を示すには 4 週間以上を必要とし、接種直後に予防効果はありません。さらにワクチンは SARS-CoV-2 ウイルスに対する完全な免疫性を与えるわけではなく、あらゆる形態の SARS-CoV-2 ウイルスに対する活性があるとは限りません。ワクチンを受けた人は全て、マスク着用、手の衛生、物理的な距離の確保を継続する必要があります。
- ワクチンに関する情報は急速に進歩しています。地域で承認されたワクチンのベネフィットとリスクについて、地域の医療機関に問い合わせて検討して下さい。

- 家庭外の人と接する時には、社会的距離を保ち、マスクを着用することが非常に重要です。
- 新しい情報が入手出来たら、アップデートを共有します。

SARS-CoV-2 はどのように広がるのか？

- **SARS-CoV-2** は、ウイルスを保有する人から他の人へと感染します。**SARS-CoV-2** は感染力が非常に強いです。この疾患は、**SARS-CoV-2** 感染者が咳やくしゃみをするとき、あるいは話をしているときに、鼻や口からの小さな飛沫を介して人から人へと広がり得ます。空気感染することを示唆するデータもあります。感染の伝播が最も生じやすいのは室内環境です。
- 無症候性または症状が最小限である **SARS-CoV-2** 感染者からでも、ウイルスが広まる可能性があります。

COVID-19 を引き起こす **SARS-CoV2** ウイルスに曝露するリスクを減らすためにできることは何か？

- **FOP** 患者とその家族および介護員はウイルスへの曝露を避けるべきです。
- 自宅にいて下さい。絶対に必要でない限り、外部からの訪問者を家に入れないで下さい。
- 外出する必要がある場合、または外部からの訪問者を家に入れる必要がある場合は、マスク、手袋、ゴーグルまたはフェイスシールドを着用して身を守ることが推奨されます。
- 臨床試験に参加している場合は、具体的な推奨事項について臨床試験実施機関に尋ねて下さい。
- **FOP** 患者とその介護員を含む全員がマスクを着用すべきです（3層構造の高品質綿マスク、またはサージカルマスク）。
- 頻繁に定期的に手洗いし、石鹸と水で少なくとも **20 秒間** 洗って下さい。
- 介護員には、介護を行う前に、石鹸と水で少なくとも **20 秒間** 手を洗ってもらって下さい。
- **NSAID**（非ステロイド性抗炎症薬）、**ACEi**（アンジオテンシン変換酵素阻害薬）、**ARB**（アンジオテンシン受容体拮抗薬）が **COVID-19** の感染リスクとその重症度を高める可能性については不明です。投薬を中止または開始する前に、医療機関に連絡を取って下さい。
- 発熱した場合は、イブプロフェンではなく、アセトアミノフェン（パラセタモールまたはタイレノール）の使用を検討して下さい。ただし、最も重要なことは、**感染を防ぎ、自己隔離**することです。
- デキサメタゾン（プレドニゾンに類似したグルココルチコイド）は、**COVID-19** 感染後期の重度呼吸器障害を発症した入院患者で効果を示すようです。医療機関に相談せずにプレドニゾンを服用してはいけません。**COVID-19** 感染初期のプレドニゾン投与がウイルスによる合併症のリスクをさらに高めるか否かは不明です。

一般的推奨事項：

- 目、鼻、口に触れるのを避けて下さい。

- エレベーターのボタン、取っ手、手すり、握手など、公共の場所での高頻度接触面を避けて下さい。何かに触れる必要がある場合は、ティッシュや服の袖を利用して手や指を覆って下さい。
- 公共の場所で物の表面に触れた後は手を洗って下さい。
- 咳やくしゃみをする場合は口や鼻をティッシュで覆い、そのティッシュはゴミ箱に捨てて下さい。
- 電話やメールで他の人と連絡を取り合いましょう。病気になった場合は、友人、家族、近隣住人、地域医療従事者などに助けを求める必要があり得ます。
- 接触頻度の高い物や表面（iPad、電話、ノートパソコンなど）は、通常の家用品用クリーナーやウェットティッシュを使用して掃除・消毒して下さい。
- 十分な水分補給を行って休息し、自己隔離しましょう。

感染の可能性に備えて取るべき対策：

- 地域で COVID-19 が大流行し長期間自宅待機する必要がある場合に備えて、医療機関に連絡し、通常の処方薬を手元に置いておくための追加処方について尋ねましょう。
- 発熱やその他症状に対処するための市販薬や備品（ティッシュなど）の備えを必ずしておきましょう。ほとんどの人は COVID-19 に感染しても自宅療養で回復できます。
- 家で長期間待機することに備えて、十分な家庭用品と食料品を備蓄しておきましょう。
- 呼吸に関する懸念や気道管理に関する疑問に関しては、こちらへコンタクトを取って下さい（\$）：

Zvi Grunwald, M.D.

The James D. Wentzler Professor and Chairman Emeritus

Department of Anesthesiology

Thomas Jefferson University

Philadelphia, PA. USA

電話：215-955-6161

携帯電話：215-206-7362

FAX：215-923-5507

Email：zvi.grunwald@jefferson.edu

\$ 訳者注：Zvi Grunwald 氏は米国の麻酔科医です。まずは主治医と相談することをお勧めします。

SARS-CoV2 に曝露したと思われる場合はどうすべきか？

- COVID-19 に類似した症状がある場合は、すぐに自己隔離すべきです。
- すぐにかかりつけ医に連絡し、指示を仰ぎましょう。可能な場合は、インフルエンザウイルスと SARS-CoV2 ウイルスの両方の検査を受けるべきです。
- 陽性または陰性の場合の対応は、地域のガイドラインに従います。

COVID-19 の検査を受けるべきか？

- COVID-19 を示唆する症状がある場合は、検査を受ける必要性について地域の医療機関に問い合わせましょう。
- 症状がある場合は、あなたとあなたの介護員が COVID-19 検査を受けることが推奨されます。
- 我々が知る限り、COVID-19 検査の鼻腔拭い液採取後にフレアアップが発現した FOP 患者はいません。

仕事／学校に戻るべきか？

- 地域の医療機関や雇用主／学校に連絡を取り、いつ職場／学校に戻るか、またそれが安全であるかについて話し合うことが推奨されます。いくつかの要因について考慮する必要があります（現在の健康状態および投薬状況、地域の COVID-19 症例、職場／学校環境、通勤／通学）。
- 社会的距離を保ち、マスクを着用し、頻繁に手洗いすることを継続する必要があります。また、大人数での集まりや屋内イベントは避けることが推奨されます。